

サステナビリティ推進

ジークトの目指す、人とクルマと地球のより良い未来のために、事業活動を通じた持続可能な社会の実現と企業価値の向上に努めます。

サステナビリティ基本方針

■ 環境の保護

事業活動に伴う温室効果ガスの排出削減をはじめ、大気、水、土壌などの環境負荷の削減に努め、地球環境の保護に努めます。

■ 人権の尊重

強制労働、児童労働を排除し、すべての人の人権及び労働者としての基本的権利を尊重します。また、すべての差別を禁止し、多様な価値観、個性を尊重します。

■ 適正な労働環境の維持、向上

従業員一人ひとりが、安全に安心して働くことができ、かつ働きがいや自己成長を感じられるような職場環境の向上に努めます。

■ 持続可能な社会を支える技術革新

顧客・消費者ニーズに応える、高品質な製品と技術革新への挑戦で、持続可能な自動車社会を支えます。

■ コンプライアンス

腐敗防止や不正取引の防止など、国際ルールや各国・地域の法令を遵守するとともに、公正で透明な企業統治を行います。

優先課題(マテリアリティ)

当社はエネルギー転換を進め、脱炭素を実現する未来のモビリティ社会を見通して、培ってきた軽量高剛性化技術を武器にイノベーションに取り組んでいます。

当社は、2016年に4つのマテリアリティ領域を特定しています

が、外部環境の変化等を踏まえ、現在見直しを図っています。今後も持続的な事業を推進するために、自社が取り組むべき企業責任を明確化し、環境保護とビジネス推進といった相反するテーマにも挑戦していきます。

特定した4つのマテリアリティ

コーポレート・ガバナンスの強化



世界中に拠点を展開している当社にとって、とりわけグループガバナンスの強化と健全なガバナンス体制の維持は大変重要な課題と認識しています。そこで当社では、チェックリストを用いるなどして定期的に国内・海外拠点のガバナンス状況を確認するとともに、本社と現地で課題の共有や改善策の検討を行い、ガバナンスレベルの維持向上を図っています。

人材育成



当社では、新入社員からベテラン社員まで、様々な人材開発プログラムを用意し、会社主導による人材育成に力を入れています。人の成長なくして企業の成長はあり得ないという考えの下、持続的な成長と進化を遂げる企業であるため、当社は従業員一人ひとりと向き合っていきます。

環境配慮製品・技術の開発



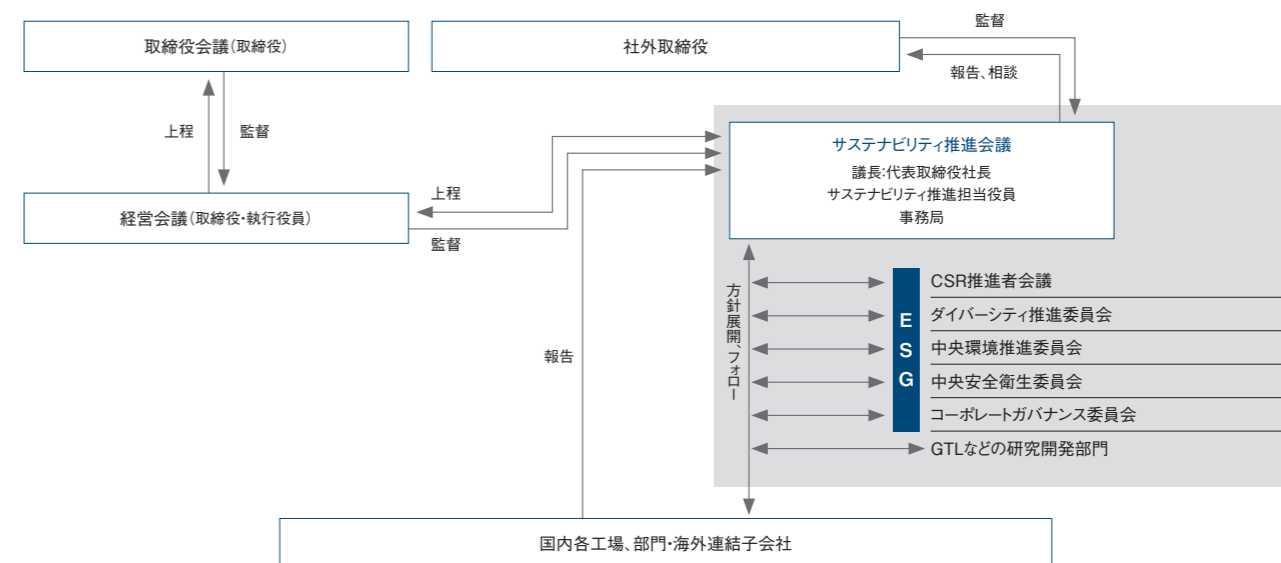
当社の製品から成る自動車は、最も環境に配慮しなければならない製品のひとつです。特に自動車の燃費は車重によって大きく左右されることから、車体の軽量化は大きな課題です。当社では、独自の設計思想と軽量化技術により、性能は落とさずに車体の軽量化を実現することで、環境負荷の少ない製品づくりを行っています。

環境マネジメント



持続可能な社会の実現に向け、気候変動リスクに取り組むことは企業が果たすべき大きな社会的責任です。当社は自社の事業を通じて排出されるCO₂削減に向け、体系的に積極的な取り組みを行っているほか、バリューチェーンにおける環境負荷低減にも取り組んでいます。

サステナビリティ推進体制



サステナビリティ担当役員メッセージ

当社は、事業活動を通じて社会課題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献することを重要な経営課題と認識しており、SDGsの達成に向けた体制を構築し、取り組みを推進しています。取締役会および経営会議の諮問機関として、社内委員会でのサステナビリティ関連課題を横断的・総合的に統合するため、サステナビリティ推進会議を設置し、代表取締役高尾直宏が議長として年一回開催します。会議の構成は、CSR、環境、ダイバーシティ、安全衛生、コーポレートガバナンスの各委員会および、ジークト東京ラボなどの研究開発部門です。実務推進部門としてコーポレート部に事務局を設け、私が担当役員として、海外子会社を含めグループ全体の推進の責任を担っています。サステナビリティの観点から、事業におけるSDGsの目標とのギャップを認識し、目標達成への貢献度を測定し、情報を開示してまいります。

当社は自動車車体部品メーカーとして、軽量で高剛性な骨格部品の開発・製造事業をグローバルに展開してきました。1970年代の排ガス規制への対応策として、搭乗員の安全を確保しつつ、車体を軽量化し燃費効率を向上することに注力しました。以来、環境と安全を両立させる車体部品の開発・製造を通じて、豊かなクルマ社会の発展に貢献してきました。まずは、主力事業の生産工程の中でのCO₂排出量を削減する、職場

での人権を守り適正な労働環境を維持・向上する、課題解決のための技術革新を行う、コンプライアンスを遵守するなど事業領域での深化を進め、そのうえで、SDGsの17の目標の議論を深めてまいります。

当社にとってのSDGsは3つの意義があると考えています。従業員・取引先が、軽量で高剛性な車体の開発・製造を通じて、明るい未来の実現に貢献していることを、SDGsに取り組みながら再認識し誇りに感じることです。自分の仕事の価値を認識し、モチベーションを向上することが生産性につながります。また、製造業は様々なルールに厳格に従って日常業務を行っていますが、自らの裁量でターゲットを達成するSDGsは、組織風土を変革していくチャレンジングな試みです。さらに役職員・従業員がSDGsの17の目標と169のターゲットの理解を深め、明るい世界の実現のために個人はどうか行動すべきかを考えることは、私たちに高い視座を与え、人生を豊かにしていくきっかけとなることを期待しています。こうした取り組みを通じて、企業価値の創造を進めてまいります。

取締役 専務執行役員
事業管理本部長

吉沢 勲